

高校3年生の12月、冬休みに入ろうとする時、友人が言いました。「もうじきクリスマスだろう、教会へ行かないか。牧師が親せきでアメリカへ行っているんだ。留守中の子供二人の遊び相手になってくれと言われている。クリスマスにはプレゼント貰えるよ。」

これがきっかけで、1月から教会へ行くようになりました。

翌年、彼が言いました。「俺、洗礼を受けることにしたんだ。牧師に言ったら、持田も誘ってごらんと言われたんだ。どうする?」、「そうか、受けてみようか?」

ここまでは、3月最終の水曜日夜の祈祷会を終えて帰宅後の電話会談。日曜日にはイースター礼拝、洗礼式、その直前、牧師が長老さんに紹介することになっていました。異議なく、皆さん大喜びで迎えてくださいました。

何回でも申し上げるべきだ、と考えています。こうしたことは、神さまのご計画です。人間的なしきたりや、いわゆる伝統には後ろに下がっていただきます。神様が働きかけているのは、志願者当人です。教会生活の長短、奉仕の積み重ね、学歴、そうしたことには目もくれず、神さまが目を留め、働きかけてくださったことに心に向けてください。

私の受洗には神さまによる準備がありました。中学生時代、友人の誘いで豊島岡教会へ、3回ほど行っています。始めの時、よく来ましたね、と言って頭を撫でられました。10年もたったころ、この方は中田光治先生という方で、教会学校の世界ではよく知られている、と判りました。3度目には一枚の紙を渡して、「入学願書です。おうちの方に書いてもらってください。」数日後、父が私を呼び、言いました。「これは宗教だね。親の判ではなく、自分の判断で行けるようになったら行けばよいものだ。」

《主よ、あなたは私を究め

私を知っておられる。》詩編 139：1